原発事故10年目の春、福島の母親たちの声：2020年調査の自由回答欄にみる福島県中通り親子の生活と健康[1]

成牛松　島谷　元佳　哲代満

1　問題の所在

2019年夏は相次ぐ台風の襲来で河川の氾濫や堤防の決壊により、大きな被害が出た。年が明けて2020年春、今度は目に見えないコロナウイルスへの不安で、子どもたちは外遊びができず、9年前の東日本大震災と原発事故を思い出したという声がたくさん寄せられた。

本稿の目的は、2020年1月に実施した「福島原発事故後の親子の生活と健康に関する調査」（以下「本調査」）の自由回答欄に記された福島で子育て中の母親（保護者、以下同様）の声を項目別に分類し、9年が経過した東日本大震災と原発事故の後の生活変化を記録として残すことである。

「福島子ども健康プロジェクト」は、福島県中通り9市町村に住所のある2008年度出生児[2]及びその母親を対象に、2013年から毎年1月に、それぞれ、凡そ15頁もあるアンケート調査を郵送で実施している。本調査は、強制避難指示区域に隣接する福島県中通り9市町村において、親子の生活と健康がどのように変化しているのかを記録し、次の世代に伝えていくことを目的としている。そのために、本稿は自由記述を読み取り、項目別に分類し、なるべく網羅的に取り上げることによって、原発事故後、こ

の地域で子育て中の母親が日常生活で感じていることを記録として残そうとしている。

2020年1月の第8回調査においては、「東日本大震災・福島原発事故から、まもなく9年になります。今の心境を率直にお書きください」という自由回答欄のリード文に、回答総数715名のうち、374名が自由記述を記入している。本稿は、2013年調査[3]、2016年調査[4]の自由回答と比べて、2020年の自由回答欄に書き込まれた母親の声にどのような変化が生じているのかに焦点を当てる。これにより、震災・原発事故から、時間の経過とともに、生活と健康がどのように変化しているのかを明らかにする。

2020年調査の自由回答欄には、これまで同様、多種多様な意見が寄せられているが、その声の分類は2013年と2016年の調査と、ほぼ共通の分類項目を利用している。ここでは、①生活拠点、②食生活、③家計負担増加、④子育て、⑤人間関係、⑥情報、⑦風化、⑧賠償・補償、⑨行政・東電・その他への不満・要望・意見、⑩健康、⑪事故後の思いの11のカテゴリーに分類した。これらの11の分類項目ごとの意見及びその傾向を記述し、最後に、全体の傾向や変化を踏まえた考察を行う。

本稿で取り上げる自由回答は、2020年1月から3月までの間の意見であり、その後、こうした意見や状況が変化している可能性がある。また、ここでの自由回答の掲載方針について示しておきたい。第1に、上記の分類項目に該当する意見をなるべく網羅的に掲載するようにした。ただし、個人が特定できる情報は掲載を見送った。具体的には市町村名、大字名の単位では個人が特定しにくいので掲載するが、それより小さい単位は掲載を見送った。その場合は、同じ趣旨の意見で個人が特定しにくい意見を掲載した。第2に、自由回答欄の意見は基本的に手書きであり、誤字・脱字も多いが、文意を損なわない最低限の修正にとどめた。これまでの調査の自由回答欄の記入数は下記の通りである(2020年4月20日の時点の集計)。

	回答総数(2020/4/20時点)	自由記述記入数	記入率	文字数	一人当たり文字数
第1回調査	2,628	1,203	45.8%	252,047	209.5
第2回調査	1,606	718	44.7%	153,938	214.4
第3回調査	1,209	746	61.7%	151,677	203.3
第4回調査	1,021	612	59.9%	117,171	191.5
第5回調査	912	549	60.2%	100,690	183.4
第6回調査	832	451	54.2%	82,812	183.6
第7回調査	809	442	54.6%	85,032	192.4
第8回調査	715	374	52.3%	70,025	187.2

2　生活拠点

（1）避難関係

生活拠点のうち、避難に関する意見は、ア「避難継続中」、イ「避難したが戻ってきた」、ウ「避難したいができない」、エ「避難しない」、オ「その他」の5つに分けられる。

ア　避難継続中

避難を継続している家庭の中には震災から9年経ち、定住を決める家庭もある。避難して良かったという声がある一方、避難先で定住するか迷う声、福島へ帰りたいという声も多くみられた。

避難してよかった

・東日本大震災から9年。子どもがいなければ、ずっと福島に住み続けていたと思います。仕事をやめ、買ったばかりのマンションを後にし、新潟に引っ越して、生活が安定するまで2～3年かかったけど心の安定は間違いなく得られ、家族で今、元気に生活できていることに日々感謝しています。3.11。当事者でない人たちにとっては1年のうちの一日。す

こしずつ忘れていってしまうこと。9年、いろいろなことがありました。当事者の私たちは、たくさん悩み、努力したことを人生の糧としてこれからも生きていく。大変だったけど無駄ではなかったと信じたい。

避難先に定住するが不安もある

・もう9年なのか、まだ9年なのか。そろそろ次のステップに進まなきゃいけない時期だと感じています。地元へは戻らず、避難先で定住するために、現在物件探しをしておりますが、子どもの手が離れ、自分自身が60才70才となった時、地元のように友人たちが沢山いる訳ではないこの土地で、どのような老後をすごすのか？と考えると少々不安になったりもします。

いずれは福島に戻りたい

・福島から県外に越して来て1年になります。福島県産のものは野菜、魚など一切ありません（宮城県産は売っています）。また、情報も、ごくたまにNHKのニュースで出る程度。変な情報と言うか、越して間もない頃に放射線のことを訊かれました。（放射線はあぶないとか）他は、関心がないのか、はたまた福島をあまり知らないのか、ほとんど会話に出ません。福島と違いのあったこと。子どもの医療費が無料じゃない。一部負担があり、ビックリ。たいがいの県は高所得者（世帯）じゃない限り無料だと思うのですが、これはビックリでした。インフルなど、任意の予防接種も自治体毎の一部負担がない。（住んでいた本宮市はありました）他にも色々あり、最終的にまた、福島に戻ろうかと話しています。何だかんだ言っても福島のほうが住みやすく、子育てしやすい環境だったと思います。

故郷への思い

・今は県外に住んでいますが、東日本大震災・原発事故のことは、忘れてはいけないことだと思っています。私は、今でも福島が大好きで、福島で生活していた町を忘れたくないので年に一度は郡山市に行き、自分の住んでいた思い出の町に行ったりしています。娘たちが小さい頃に東日

本大震災にあったので、子どもたちにも忘れていってほしくないという思いもあり、なつかしの町につれていったりしています。今後も、郡山市に帰ったりしていきたいと思います。

イ　避難したが戻ってきた

震災から時が経ち避難先から福島に戻ってきた人もいる。福島に戻ってきた人のなかには、精神的な安定を得た人がいる一方、福島の現状を不安に感じる人もいた。

戻ってきてよかった

・震災前と同じように暮らしています。一時県外へ引っ越しましたが、もどってきてよかったと思っています。

避難した先から福島へ戻り不安

・昨年末に県外より5年ぶりに郡山へ戻ってきました。県外の生活に慣れ、食材もすべて気にしていない、外遊びも大丈夫という生活からまた、震災後のイメージのまま郡山に住みはじめました。避難先での生活のまますごしているところもありますが、ふと、福島産のラベルをみると不安があります。これはどうしたらいいものなのか、5年ぶりに戻ってきても不安なものはありますね。

ウ　避難したいができない

持ち家などを理由に、避難したいができないという声も聞かれた。

・持ち家の自宅もあるので、将来のことを不安に思う気持ちはあっても、他へ行くこともできず、現状のままです。

エ　避難しない

前向きに生活しているという声が聞かれた一方、福島での生活を選んだが不安もあるという声もあった。

不安がある

・今もここに住み続けて良いのか常に思っています。

福島で暮らしたい

・この一年、震災のことを気にすることはありませんでした。以前の生活が戻ってきていると感じます。畑で野菜を作ってそれを食べています。子どもたちも「おいしい～！！」と言って食べてくれます。これがあたりまえの生活です。私達はここでの生活を選びました。将来、子どもたちにとってどんな影響があるのか、ないのかわかりません。気にしないわけではありませんが、「大丈夫！！」という言葉を信じて生きていきます。

オ　その他

避難しなかったことが子どもの未来に影響しないことを願う声や、避難している方を想う声、家族と一緒に暮らす喜びなど、様々な意見があった。

福島での生活に不安がある

・わが家は転勤族ですが、子どもも大きくなったこともあり、夫はそろそろ地元の福島に家を買おうかと言っていますが、私はやはり福島で暮らすことに不安があり、私の地元は福島ではないので、特にそうなのですが、今後も甲状腺の検査とかを考えると、福島県内に住んでいた方が都合が良いとは思うのですが、いったん外に出てしまったので、なかなか戻ろうという気持ちになることはできません。今も福島に住んでいる友人や夫の家族には申し訳ないですが、それだけあの当時怖い思いをしていたんだなと今になって思います。

（2）保養関係

保養に関する意見は、ア「保養プログラムの拡充を望む」、イ「保養に満足した」、ウ「その他」の３つに分けられる。

ア　保養プログラムの拡充を望む

避難しないという選択をした、または避難したくてもできなかった家庭では特に保養を重視しているという意見が見られた。

避難の代わりに保養を利用

・できることなら、福島から引っ越しをしたいのですが、私も旦那の実家も福島なので、福島を離れるわけにはいきません。その中で、保養で少しでも線量の低い所へ、と保養を使わせてもらっていますが、だいたいは小学校の間まで、来年から中学生になるので、保養に行けるのもあと1年だけ…と思うと、悲しいです。成人になるまで、もっと気軽に保養に連れていけるといいのですが…。

・今まで東日本大震災や原発事故に向いていた目も、台風等にうつっていってしまっていて、保養もなくなる、または金額が大きくなって、参加するのも難しくなってきてしまった。娘に関しては、出産の時に無事に元気な子がうまれるまでは、避難できずにずっと福島ですごしたことの責任がついてまわる気がする。気休めかもしれないが、今でも、長期休暇には保養に出したいし、できれば親も一緒に行って、リフレッシュしたい。

イ　保養に感謝

できるだけ参加したい

・震災の時の大変さ、不便さ、子どもを守らなくては…という思いを思い出すと、大抵の困難なことは乗りこえられるような気がします。今でも、春、夏、冬休みには保養に出かけ、心身ともにリフレッシュするように心がけています。4番目の子どもの育休中ということもあり、子どもたちを連れ出すことができ、新しい友人、初めての土地、食べ物、行事など様々な体験ができることにいつも感謝しています。ただ、各団体さんがいつまで企画してくださるかはわからないので、行けるうちに参加したいと思っています。子どもたちには、心身ともにたくましく強い幸せ

な大人になってもらいたいです。

・当時２歳だった息子は、現在も長期休みには北海道へ保養に出しています。今でも保養事業を続けていただいていることに、いつも感謝しているところです。来年は、６年生になります。中学生になると、保養どころではなくなり、学校生活が忙しくなっていくことでしょう。このまま健康に子どもたちが生活していけることが希望です。

保養が良い思い出になっている

・まもなく11歳になる息子が最近よく、「小さい時にママと二人で色々なところに行ったね。」と言っています。保養しなくてはと母子でなるべく郡山市以外に出かけましたが、あの時のあせりは今も感じています。子どもにとっては、楽しい思い出として残っているのはほっとしています。

ウ　その他

保養をあまり利用しなくなったという意見も複数あった。子どもが成長し、部活などの予定が増えたことや子どもが保養に行きたがらなくなっていることなどが原因となっている。

・福島に住み続ける以上、親の責任として保養に出ることと検査を定期的に受けることはやっていこうと心に決めました。この想いを軸にして数年間生活してきたのですが、子どもが大きくなるにつれて、どちらもなかなか難しい場面が出てきました。「なぜうちだけ休みになると保養に行くの？学校の友達と遊びたい…」「検査受けたくない。学校のみんなは受けてないのに…」と子どもに言われます。放射能のこと、親の気持ち、時々伝えてはいますが、学校で放射能の安全性？について教えられ、親よりも友だちと一緒にいることが楽しい時期の息子に親の気持ちを押し付けてよいのだろうか？と悩みます。もちろん保養で知り合ったお友達もいて、参加したらしたで楽しめるんですけどね（笑）母親としては、自分で決めた軸から揺らいでしまうことに不安感があります。悩みなが

らの生活は苦しいので、自分で決めてそれを実行することで、考えすぎないようにしたり、いろんなことを肯定して生活したりしているみたいです。どうやらそうみたい。子どもが中学生くらいになるタイミングで、自分の中のルールを考え直した方がいいのかな～。今は気持ち的にちょっと疲れ気味です。

・もう9年か…というのが正直なところです。あっという間でした。年々保養などに関心がなくなりつつあります。お金が大変ということと、子どもが大きくなったことは大きな要因です。あと1年はがんばります。区切りなので。

・今年度は子どもたちの部活やスポ少で保養に出かけることもできず、保養などに出かけることは子どもの成長により限界を迎えたことを実感しています。

・子どもが小5になり、反抗期も始まってきたこともあり、保養に行くことをしぶることも増えてきてしまった。

（3）除染関係

除染に関する意見は、ア「除染にある程度満足している」、イ「除染に不満がある、除染の効果に疑問がある」、ウ「除染を望む」、エ「その他」の4つに分けられる。

ア　除染にある程度満足している

除染土が運び出されたことで安心したという声が多く聞かれた。

除染土・汚染廃棄物の運び出しで安心

・ようやく庭に埋まっていた除染土壌が運び出され、終わったという感じがしました。庭はカチカチの砂が固まった状態になったので、これからどういう庭を作っていこうか考えることができます。今までは「どうせいろいろやっても、また掘り出すとやり直さなきゃいけないんだからやっても仕方ない。」とあきらめの状態でした。9年たって、ようやく

いろいろ落ち着いて、前向きに歩き出せると感じています。今まで失った時間や環境は取り戻すことはできないけれど、これからの未来をよりよいものにしていけたらと思います。

・土の撤去も順番にしていただいて、近くの用水路の除染・掃除と、とても良くなってきていると思います。作業されている方々には本当に感謝の気持ちでいっぱいです。私たち家族もすっかり気持ちが落ち着き、自分たちで畑仕事を楽しめるようにもなりました。まだ小さな川などは除染されていないので、川はらいもないのですが、生活に困ることはないと感じます。

イ　除染に不満がある、除染の効果に疑問がある

除染は実施されたものの、汚染土の処理方法に対する不満や、除染土の運び出し作業に対する不安が多く聞かれた。また、除染されていても安心できない、という声もあった。

汚染土等の処理の不満

・除去した土はもっていってほしい！！

除染土の運び出しに不安、不満

・福島県内で汚染された土の持ち出しがはじまりました。持ち出された後の土地が空き地になっています。そのあとの活用がどうなるのか、不安があります。9年前の震災もそうですが、昨年の10月の台風でこの土地がどうなるのか、経過をみて、地元に協力できることは、協力して行きたいと思います。

・福島市では現在汚染土の搬出を行っています。以前説明を受けていた時期よりもだいぶ遅れての搬出で子どもが通う小学校、中学校では校庭が使用できない日々が続いています。周りをフェンス、アルミの板のようなもので囲い、作業を行っているため、どのような作業をしているのか見ることはできません。近くの保育園でも同じ作業が行われているのですが園庭の真下に埋めていたようでした。子どもたちが遊ぶ園庭の真下

に保管していたのかと驚きました。自宅の汚染土も昨年末に搬出され、周辺でNHKの記者の方が話を聞きまわっているようでした。9年たってこの状況なんともいえない気持ちになりました。

除染後も不安が残る

・郡山の家はまわりを林でかこまれていて、所有者が除染をしなかったため、せっかくの自然の中ですが、子どもをあそばせられないのが残念です。時間が経てば経つほど、そのように島のように取り残されたり、目の前の池にだんだんとたまっていったり、いわゆるホットスポットが再びできてくることが気になっています。

ウ　除染を望む

除染や除染土の運び出しが進んでいる地域がある一方、除染されていない場所もある。早く除染土を運び出してほしい、という声も見られる。

・庭に埋まっている除染土の掘り出しがまだ来ていません。少しずつ家庭菜園等も楽しみたい気持ちもありますが、汚染土が埋まっていると思うと、なかなか行動に移すことができません。一日も早く掘り出していただき、庭いじりも楽しめるようになりたいと願っています。
・家の前にある池の除染はいつしてくれるのか。除染してうめた家の中の土はいつ移動していくのか。

エ　その他

復興が道半ばだと感じるとの意見や、昨秋の台風の影響を指摘する意見もあった。

復興はまだ

・9年たった今でも、すぐ近所の公園、役所の敷地の地中から除染した土でしょうか、土のうを運んだりしているようです。それを見ると復興はまだまだなんだろうなと感じます。

台風の影響を心配

・どんどん震災のことを忘れてしまっているが、9月に起こった台風19号の影響ですぐ近くの地区でも氾濫等の被害が出ました。その影響で山の除染されていない土等が下へ流れ込み放射線の数値が上がっていると聞いて不安になりました。

3　食生活

食に関する意見は、「地元産の食材や水道水はできるだけ使わない」、「地元産の食材や水道水を使わざるを得ない、使っている」、「学校（保育園）給食に対する不満」、「その他」の4つに分けられる。

（1）地元産の食材や水道水はできるだけ使わない

食に関しては、2013年、2016年の調査より意見が減ったが、地元食材に抵抗を感じるという声は少なからずある。

産地を気にする

・福島の野菜を買うときに、どうしても線量の高そうな地域の物は避けてしまいます。娘に「どうして買わないの？」と言われることがありました。その時はごまかしました。値段とか…質とか…。

（2）地元産の食材や水道水を使わざるを得ない、使っている

検査していることへの安心が増し、あまり気にしなくなったという人がいる一方、地元産を食べているが不安な気持ちを抱いている人もいる。自家栽培のものは避けるなど、ルールを決めて購入している家庭も多い。

検査されたものを使っている

・地域の除染をしていただき、検査がとおった食材を食べ子どもたちに影響を感じることなく生活できています。将来、子どもたちが大病することなく、平和に暮らせること、心から願っています。

気にしていない

・普通に県産の野菜類肉類も買うし（むしろ積極的に摂るようにしている）不安はない。平和ボケしているのかも。

地元産を食べているが不安もある

・柿など県内のものは若干抵抗があり（実がなるまでに8年といわれているので）なんとなく避けてきました。スーパーのものは安全と考え県内産関係なく購入しています。

・スーパーなどで売っている地元産の食材は購入して食べています。自家栽培で作った野菜などを時々いただくことがありますが、子どもたちに食べさせるのがこわくて、そのまま処分してしまうこともあります。後ろめたさを感じながらも、そのような行動をとってしまう自分がいて、9年経っても変わらないのだなととてもガッカリしています。

・放射能の心配も、時々出かける公園では土や遊具など心配になりますが、スーパーで購入する野菜や、飲料水、洗濯物は、ほぼ心配しなくなりました。ただ直接頂いた野菜や果物、自家製あんぽ柿は未だに抵抗があります。

（3）給食

福島県産の食材を給食に導入していることに関する意見は少なかった。

・学校の給食は毎日、放射能の検査をしていただいているので、安心して食べることができます。

（4）その他

・飲料水と野菜に注意を払っている為、一生原発事故から離れられないかと思うと、とても嫌な気分になります。

4　家計負担増加

家計負担増加に関しては、「他県産の食材・水の購入費用」、「外遊びの代わり」、「その他」の３つに分けられる。

（1）他県産の食材・水の購入費用

他県産の食材や水の購入費用に関して、次のような意見があった。

・生活も厳しくなってきて、水も買って飲んでいるのをやめようかと考えているのですが、子どもたちはおいしい水の味のほうに慣れてしまっているし、簡単に飲めるので小さい頃からそうしてきたため、困っていることもあります。

（2）外遊びの代わり

今年の調査では、外遊びの代わりとして家計の負担が増加したという意見は見られなかった。子どもの成長に伴い、親が外遊びに連れていくことが減ったためと思われる。

（3）その他

その他、事故後に増加した費用として、避難・二重生活にお金がかかるという意見があった。

避難・二重生活の費用

・子どもが福島県外に住んでいるのが当たり前になっているので、今から引っ越しは考えにくい。でも親が孫の面倒を見るのをずっと楽しみにしていたので、その楽しみが消えてしまって悲しく思います。「事故さえなかったら」と未だに残念に思います。こんなに借金まみれで不安な生活を送ることもなかったのになぁ。生活が辛いです。

・子どもたちは、こちらの生活に慣れ福島から住所を移しました。主人は、福島で生活しているので、二重に生活にかかります。高速道路の無料がなくなるとこちらに来る回数が減り子どもたちに会う機会が減ってしま

います。高速道路は、無料継続願います。

5　子育て

（1）放射能対応（行動）

外遊びをさせながらも不安な気持ちを抱えているという意見や、外遊びをさせなかった影響を感じるという意見が増えている。また、気にせずに外遊びできるようになった、という声もあった。

外遊びの減る年齢だと指摘する意見や、親の目の届かないところまで子どもの行動範囲が広がり不安があるという意見もあった。

年齢が上がり外遊びをしなくなった

・2008年生まれ（5年生）で外遊びする今どきの子どもは、そもそもほとんどいないと思いますが…？

親の目が届かない

・すっかり子どもたちも大きくなり少しずつ手をかけることがへってきています。その分、目にみえない所で子どもたちそれぞれが自分の時間を持つようになり、何をしているのかわからない時間もあり、どこでどんな風にすごしているのか100％聞くこともできません。見えないときに子どもたちに放射線の影響があるようなところに行ってないか心配になります。

外遊びをさせなかった影響

・アンケート対象の子は外遊びが好きではなく、上の子たちは小さい頃から外遊びをして大きくなっても体を動かすのが好きなのですが、小さい時に外で遊べなかったことが関係しているのかは分かりませんが、上の子たちと同じような環境で公園や庭で遊べていたらと思ってしまいます。

学校での対応

・学校のほうでも、特に、外遊びなど制限もなく、本当に、以前のようです。このままおちついて生活していきたいと思います。

放射線を気にしなくなった

・除染が進み、数値的には下がってきているようです。県内で子どもを遊ばせることを屋内、屋外問わず、させていますが、海だけは、海水浴はさせません。海産物も福島だと食べたくはないと思います。海水浴は日本海に行くことにしています。これは、ずっと変わらないと思います。
・子どもたちが小さかった頃は、公園など、外遊びができない現実をかわいそうに思ってましたが、現在は除染も進み、何も不自由なく過ごしています。

屋内遊び場

・子どもが大きくなってもまだまだ不安なことがあります。大きくなっても健康でくらせることを願っています。まだまだ公園などでたっぷりあそばせてあげたいのですが、室内で遊ぶことが多い。近くに体育館など無料施設をもっとふやしてほしい。特に小学校の高学年でも安心してあそべるところがあるといいと思う。

（2）放射能対応（検査）

放射能に対処する為の検査に関する意見は、子どもの検査に関する不満・不安・負担感の他、検査の継続を望む声が多い。また、甲状腺検査の結果から不安を感じる声もみられた。一方、検査や計測をやめたという声もあった。

検査は継続して受けたい

・体に影響があるかもという心配もあまりしなくなりましたが、子どもたちと一緒に検査などはきちんとうけていこうと思っています。

検査結果について

・子どもの将来の体調面は、かなり不安を持っていますが、先のことはわからないので…。ホールボディカウンターや甲状腺検査もいつまで続けてくれるのかわからないし、結果も信用できるものなのかどうか…。
・今でも、放射能のバッチをランドセルに入れておいたり（前から下げる

ものですが…)、ボディカウンター、甲状腺検査と受けてます。気になるのは甲状腺検査です。A2が多いと資料にはありましたが、心配で、はじめてA2と判断されたときは、専門の人にTelして相談もしました。検査も受けない人も多くなり、友だちにも結果などきけません。

・甲状腺の検査をすると、長女はいつも所見ありの経過観察となります。精密検査が必要なほどではないようですが今後が心配です。

関心の低下

・市からホールボディカウンターの案内がくるが、以前より優先順位が下がってしまい、受けていない。(家の予定や、仕事を優先してしまい、足が遠のいている)。

検査に不信感

・ガラスバッジもいつも異常なしですが本当にそうなのかと心配になります。

・子どもの甲状腺検査を学校で何回かやりましたが、意味があるものなのかも分かりません。他県との比較もしていないようです。ガンと診断されても因果関係は無しとされるようです。正直な気持ちとしては、心配した方がよいのか、しないほうが良いのか、分かりません。

検査を受けることで安心できる

・毎回検査していただいても、子どもたちは一度も検出されず、元気に育っているのがなによりもホッとしています。

検査に感謝

・定期的に内部被ばく検査などやってもらえることはありがたいです。

(3) 母親の妊娠・出産

・9月に末っ子が産まれ、とてもかわいがってくれるし、抱っこなどで協力もしてくれます。年の離れたお兄ちゃんは頼りになる部分もあります。子どもたちだけでも協力し合えるように育てたい。

6　人間関係

人間関係に関する意見は、「家族・近所・知人」、「外部（いじめ・差別）」の２つに分けられる。

（1）家族・近所・知人

家族間や近隣の人と放射能に対して考え方に相違があるため、ストレスを感じることがある。

家族

・避難からも賠償からも微妙な地域なので、夫の両親、夫とは原発事故に対する子どもの影響のとらえ方、考え方に９年前から今も温度差を感じながら日々生活しているように思います。

近所・知人

・現在住んでいる地域は、災害の影響が比較的少なかったようですが、そのせいもあり、地域の方々とは話が合わない時があります。

（2）外部（いじめ・差別）

「福島」出身者に対する差別や偏見を不安に思う意見が多くみられる。特に、将来の進学・就職で県外に出たときの差別や、結婚する時に影響しないか等、不安に思う声が多い。

将来の進学・就職・結婚

・女の子が大人になり結婚するとき、福島生まれが障害になるのかと思うと心配になります。

・まだ小学生ですが、これから中学、高校、その先に県外にでたりしたときに、福島出身ということで差別やいじめにあったりしないことを願いたいです。

差別への不安

・この地域は、田舎なので放射能がらみのいじめやいやがらせはありません。皆穏やかに成長しています。一歩外の世界にでると話は変わってく

ると思います。その時に、自信を持って自分の育った所の名前を言えるような社会になっていってほしいと思います。

・子どもも記憶にないようで「私何歳だった？」と聞いてきて不安になることはないのですが、子どもが大人になって他県に行ったときに福島県出身というだけで差別や偏見の目で見られることに不安があります。

・将来子どもが大人になったときあの時福島にいた放射能をあびた人だと日本だけでなく世界の人々よりそのような目で見られないことを祈るばかりです。

・日常会話の中で震災時の話題が出ることもあるので、子どもたちが成長して福島から離れたときに理由なき偏見などで心を痛めることがないよう正確な情報と医学的なサポートを受けられることを望んでいます。

・お金がかかっても、子ども達を安全に成人させたい気持ちは、どの親も同じですが、風評が他県に行くとまだあるので、将来が不安です。学べる場だけはうばわれないようにしてほしいです。

・子どもが将来、大学などで県外に行ったとき他県の人から差別を受けないか心配。少しでも福島出身というだけで差別を受けることがあったら、私たちは何も悪くないのにかわいそう。そしてつらすぎる。

・将来、子どもたちが大人になったとき、福島で生まれ育ったということで、他国や他地域の方から偏見の目で見られる、ということがない世界になるよう願っています。そのために、今、福島にいる大人が何を大切にすべきか考えていきたいものです。

・オリンピックで福島を外すというようなニュースを見たり差別的な目やいじめが実際にある。転校した先でバイキンと言われた子の友人もいる。どんなに安心安全を表しても、外国から非難を受ける。福島に引っ越してきたばかりにこんな目にあうなんてとくやしい思いも正直ある。福島に住んでいることで子どもが嫌な思いをせずにすごしてほしいと思う。

周囲からどう見られるか

・福島から夫の仕事の転勤で引っ越しました。「どこから来たの？」と言われ、「福島です」と答える時、何か心に引っかかるものがあります。自分自身が気にしているだけだと思いながら、相手がどう思うのだろう…と考えてしまうからだとおもいます。子どもたちは堂々と「福島です」と言っていますが、だからと言って何か言われたりはしていません。又、最近、地震が起きているため、知り合いの方々と東日本大震災の話がでましたが、何も、普通の会話でした。（放射能よりもゆれの話でした…）自分が一番こだわっているのかな…。

・もう９年かと思うが、やはり、９年前のまま止まっていると思う。原発事故さえなければどんな人生を歩んでいたのだろうと思うばかりです。今の生活に不満がある訳ではありませんが、どこか、後ろめたさを感じながらこのまま生きていくのでしょうか？何も悪いことはしていないのに。周りの人々は、きっと、ずっと避難者と見つづけるのでしょう。

7　情報

情報に関する意見は、「情報不信」、「風評（土地・食べ物）」、「その他」の３つに分けられる。

（1）情報不信

・まだ放射線は出続けているのに、大丈夫と思わせるニュースが全く信用できない。早くどうにかしてほしい。

（2）風評被害（土地・食べ物）

事故から９年が経過し、土地や食べ物に対する風評被害に苦しむ現状を危惧する声が多くみられた。今年はオリンピックに関連して海外からの風評を挙げる声が多かった。

風評被害

・最近ニュースで東京オリンピックの聖火リレーの話題があり、海外の方が、福島を放射能で汚染された県、福島の食材は使用しないほうがいいとか、ニュースで見て、私自身もですが、住んでいる子どもたちも悲しんでいます。そういう偏見が少しでもなくなってほしいです。

・「放射能オリンピック」のPRが嫌らしいですね。せっかく前進したものを後退させてしまう悪意ある内容です。但し政府も叩いて埃が出るような詰めの甘い復興をしたら一度で世界のイメージがアウトですよね。ずっと肝にめいじてほしいと思います。

・震災については日常生活で思い出すことはあまりありませんが、先日テレビである国がオリンピックの際に、日本の食材を食べないとの報道をしていて、まだ風評被害があることを感じました。

・韓国の人が変なオリンピックのポスターを作っていると言う報道もありました。とても心が痛みました。平和の祭典オリンピックのポスターで風評被害…なかなか悲しいです。

・東京オリンピックで「福島を聖火リレーコースから外せ」「福島産を食べさせるな」など各国の一部の報道を見ると「なぜ？」「なぜ福島を？」と憤りを感じます。この憤りをどこにぶつければ？この先、子どもたちは一生この思いをしていくのか？「過去のこと」と思っている自分と「先の不安しか見えない」自分とがいます。この葛藤は終わることがないのでしょうか。そう思ったら不安しかありません。しかし、日々の生活での子どもたちの明るさに助けられています。

・原発は福島だけの問題と思わないでほしい。関東や日本全体の助けになっていたことを忘れ、毒物を見る目で見ないでほしい。福島の米、野菜、果物はとてもおいしいです。もっと理解を広めたいです。

（3）その他

事故に関連する報道を見たくないという声や、情報収集など情報への向

き合い方についての意見があった。

情報を得て不安になる

・時々ニュースでショックな内容のニュースをみると心が痛む。

報道を見たくない

・TV や新聞ではいまだに福島というと、暗い話題や、補償のさわぎを見ていますが、どちらかというと、またか…とチャンネルを変えてしまっています。

情報がない、減っている

・帰還困難区域も特定復興拠点の箱物ばかり報道され、フレコンバックの山、荒れ果てた人のいない街、草が追い茂る状態は全く報道されず。

・汚染物の処理や原発の問題もあまり報道されなくなったように思います。このまま風化しないように…。私達にとっては一生の問題。

情報を得たい

・福島原発は、現在どのような状況かあまり分かっていない。生活で忙しく、その情報を収集することも難しい状況です。

情報発信が必要

・“病は気から”前向きに立ち上がっていくことが大事です。これからは強い福島を世界に発信してきます！！

情報を集めている

・この 9 年間を振り返って思うことは、自ら学ぶことの大切さと情報リテラシーの重要性です。それが、私が原発事故から得た教訓です。原発事故直後は、放射能のことなど、分からないから不安になるということがたくさんありました。学んで知識を得ることで、少しずつ不安は減っていきました。しかし、どの情報が正しいのか、というのを見極めるのが、なかなか難しかったです。もし、不安よりの情報ばかり集めてしまっていたら、私も自主避難していたかもしれません。（結果的に自主避難するほどの状況ではなかったと思っています。）どのようにして情報の取捨選択や評価を行っていくかといった情報リテラシーは、ネットから情

報を得る機会がさらに増えるであろう子どもたちの世代にもしっかりと身に付けてほしいと思います。

8　風化

日々の生活に追われ、意識することが減り、話題にならなくなったという意見が多い。そのような中で、自身や周囲の原発事故の風化に対して不安や心配に思うという意見や、風化させてはいけないという声があった。昨秋の台風や昨今のコロナ禍の影響で、さらに話題にならなくなり風化が進んだと指摘する声もあった。

一方、風化が進むことで県外からの偏見や差別がなくなるのではないかという期待もあり、複雑な心境が語られた。今年は阪神大震災から25年ということで、引き合いに出して考える意見もあった。

意識しなくなった

・この調査票が届いて、「9年経つんだ」と思う程度で普段は特に意識していないし、地区内で話題になることもない。息子も順調に成長していて、今後を楽しみにしている。
・東日本大震災のことは風化しつつあると感じる。自分自身もあの時の出来事がまるで夢の中でおこっていたことのように感じる時がある。もしあの時に地震がなければ、原発事故がなければと、自分の生活や避難した知人たちのことを考えることがよくある。
・当時のできごとを客観的にふり返ることができるようになった一方、記憶が風化していることも感じる。「もう9年になるのか」と、時の流れの速さを実感している。
・風化してしまい、少しの地震だとまったく反応しなくなりました。子どもが4人に増え、また同じようなことがあったときに、どのように動けば良いのかわからないです。
・今の生活の中で、原発とか放射能という言葉は全く聞きません。住んでいる私たち自身も、気にして生活はしていませんし、震災前と変わらな

い日々を送っています。これが風化なのだろうなと思います。ただ今なお放射能で汚染されていることは変わらないので、これから先の家族の健康、特に息子の健康が一番の気がかりです。

・うちは幸いにも直接的な被害はほとんどなく、避難することもなかったため、普段思い出すことはありません。地震によりお亡くなりになった方々にはご冥福をお祈りします。

日々の生活に追われ忘れている

・私が住んでいる福島市内は、私も含め、周りの人も今は一切、原発事故のことを口に出して話をする機会がありません。住んでいる私たち自身、日常におわれてしまい、すっかり忘れて生活しているのが実情です。もちろん、震災の日になると、TV のニュース等で話題になるので、その日だけ思い出して、震災の当日をなつかしく感じ、被害にあわれた方々をしのんだりはしますが…。原発事故の影響についても、日々忘れて生活しています。今を大切に、今を楽しく、今を精一杯生きる…常にそう思って生きています。遠い未来（将来）を考えるより、近い未来…1、2年先のことを考えて生きています。だって、いつ、どこで何が起こるか分からないから…。後悔はできるだけ少ないほうが良いと思うので、自分の思い、家族の思いを大切に生きています。

・忙しい１年でした。そのせいか、震災・原発事故の事を思い出す暇もなく、今現在このアンケート記入で久しぶりに思い出した次第です。忘れても風化はさせたくないというのは矛盾してると思いますが、正直に申しますと忘れてました。

・当時４才、２才だった子どもたちも中１、小５になり、日々の成長や進歩が目まぐるしく、賃貸だった家も戸建てにバージョンアップ。大変な災害だったとは認識しているが、日々前進あるのみ、忙しく、震災のことなど反芻している暇はほぼない毎日です。が、こうして忘れないでいて、復興を助けてくださる方々がおられることには感謝です。

・原発事故について考えている暇がないほど、毎日の子育てでバタバタし

ている。ふと考えると、安全安心宣言が出ている訳でもないのに、小学校生活も、震災前と同じようになっていることに気づく。たとえ、放射能が不安だと思ったところで、状況を変えることができるわけでもない。ただ毎日の生活に追われて過ぎていくだけ。実際は、このようなアンケートが届いた時にだけ、震災のことや事故のことを考え、一瞬不安になるだけで、あとはまた、日々の生活に追われていくだけ。

話題にならなくなった

・もう話題にもほとんどなりません。職場でも、家でもあんまり話をしません。忘れてはいないけど、あんまり思い出さないです。特に実害がないので、被害にあわれた方とは、違うのかもしれません。申しわけないです。

・最近は大震災や原発事故の話題を身近な人と話すことがなくなり、風化を感じます。新たな災害が全国で起きているので、備えが大事だと感じています。

・震災については普段まったく話題に出なくなりました。全国的な研修会に参加した時に、他県の方から聞かれるくらいです。忘れたわけではないけれど話すこともないといったところでしょうか。他県に進学した子どもがおりますが、震災について聞かれたことはないそうです。（放射能についても）浜通りの方、未だに戻れない地域があるので、その方々のことを思うと心が痛みます。20年以上前に原発のある地域に数年ほど住んでいました。のどかでとても良いところでした。

阪神大震災25年に東日本大震災を考える

・これを書いている前日の1/17は、阪神淡路大震災から25年という日でした。現在住んでいるところは、比較的近いのですが…1/17以外で思い出すことがないというのが本当のところです。未だにその瞬間から抜け出せない（抜け出したくない）人がいるのは、良くわかってはいるのですが、それ以外の人にとっては、風化しつつあります。熊本地震にしてもそうです。日本という国土の成り立ちから考えると、無数の震災が

多くの人々を犠牲にしてきました。平和で平穏な日常の方が非日常なのだと思います。神戸に行っても全く平穏です。風化というのは悪いことなのか良いことなのかわからなくなる時があります。もしかすると、つかの間の日常かもしれない毎日を大切にありがたく過ごしていきたいと思います。

台風などの自然災害の影響

・震災の話はあまりしなくなりました。風化を感じますが、普通の生活が出来ていると感じます。今年は、水害の被害もあり不安になりました。今は、コロナが心配です。

・昨年10月の台風19号で被災した方が身近にいます。なので、復興というと、震災や原発事故よりも台風被害から立ち直ることのほうが強く感じます。幼稚園（下の子）でも、衣服を提供したり、実家が水害になった職員がいたり。職場が水没した人もいました。それらのこともあり、原発事故のことが今はより一層風化しているように思います。

風化が不安・心配だ

・まもなく9年。過ぎてしまえばアッという間だったかも。幼かった子も今はもう小学校高学年。放射能がどうのこうの、より、勉強、学校、友だちの方が気になりいつも子に話しかけています。こうやって風化していくのかなと考えてしまいます。けれど現実には未だに少しずつ放たれている放射線を世間ではもう終わりのように静かにしている。本当はこれではいけない。本当にこれで終わって安心していられるのか。これから先ずーっと何事もなく何の変化もなく過ごしていられるのか不安ではあります。私はもういいけど、これからの人たち、子どものことを思うと、心配でなりません。本当にもう大丈夫なんですか？

風化させてはいけない

・当時避難指示区域在住で、今は中通りに住んでおります。中通りではほぼ東日本大震災のこと、原発事故の話題は過去のもので風化しています…が、避難指示区域へ行けば雇用、子どもの減少など将来につながる問

題は大きく切実なものになっています。子どもたちの生き方、地元への関心は、薄れているので、県全体で考えていかなければいけないと思います。

・自分の住む地域では原発事故による影響があまり無かったせいか、今では原発・東日本大震災のことは忘れつつあります。放射能も今では全く気に留めることもなく、風化させてはならないと思いつつ震災前の生活になりました。

・日々の自分たちの生活を送る中で、原発のことを考えて生活することはほとんどありません。私たち当事者がそうなので、世間が忘れていくのは当然だと思います。ただ、子どもたちのためには、原発の学習会等は継続していくべきだと考えます。

・昨年は災害が多く、その時に東日本大震災の時のことをよく話しました。災害に強い町づくりを市・県・国にしてほしいです。福島原発事故をテーマにした映画が公開されます。風化されつつある震災をもう一度考えるいい機会にもなると思います。

風化に対する複雑な心境

・風化されていると感じています。ただ、これからの子どもたちのことを考えると、原発事故のことだけは風化されて人々の記憶から忘れ去られていってほしいと思う。理由は、福島の子どもたちへの偏見や差別をなくしてほしいと思うから。子どものこれからの人生において、進学や就職で県外へ出たとき、国外で活躍するようになったとき、福島出身ということが、むしろ誇りであってもらえるような地域になっていってほしいと思います。親自身の気もちのもち方や、子どもへの伝え方も大切なのかもしれないですね。

・このところ「放射能と食の安全」とかいった放射能に関する講演や話の場があると、もうなんで今もまだやるのだろう…やる必要はあるのかな、と感じます。周囲でも放射能という言葉すら聞くことはなくなり、もうそういった記事も見なくていい、見たくない、というのが率直な気

持ちです。風化ではなく、もう触れない、ということもあっていいのかな、と思います。

・本宮市内は台風19号で水害があり（私は被害なし）全体的にバタバタとしています。話題も水害が多く東日本大震災はかなり風化していると思います。なのであまり考えすぎる事もなく穏やかな気持ちでいます。県外でも風化が進んでいると思うので、逆に差別なく暮らせるのではないかと前向きな気持ちでいます。

・年々、あの時の記憶がうすれていくように感じます。それは、良いような悪いような。気にし続ければ、生きていくのに辛いこともありますし、忘れれば、またあのような事が起きた時に、また同じことをくり返すような。常に複雑な気持ちで、生活しているような感じです。ローカルニュースでの放射線情報が、流れなくなる日が早く来ればいいと思います。

9　賠償・補償

行政や東電が行なった賠償・補償の線引きに対し不公平感があり、その恩恵を受けている人に対して不快な気持ちがあるという意見が依然として多い。

避難・賠償の取り扱いに差異のある人への怒りや不快感

・補償については、今でも不公平感があります。賠償金をもらっているからと、いまだに働かず、裕福な暮らしをして、補償が打ち切られそうになると何かにつけてまだ補償をしてもらおうという動きがあることをニュースや新聞で見ると、一生もらい続ける気なのかと思ってしまいます。腹立たしさを感じてしまいます。避難している方もそれなりに大変なのでしょうが、もう新しい地域での生活にも慣れてきたのではないでしょうか。もう補償も打ち切ってもいいのではないかと思います。

・今もまだ震災の被害の方々が医療費など無料であり、補償もずっともらっていることに不満を感じる。台風被害で住む家がない人、家の修理

にまだ入ってもらえない人もいるので、県などもそちらに補償にあてている費用をまわしてもらいたいと感じる。今現在つらいのは台風の方。震災の人は今は住む家もある。働く力もある、それなのに補償をもらってゆうゆうと大きな家にただいるという状況に納得がいかない。

・原発事故後、日本で様々な災害があったのを見ると、この人たち（避難民）は、いつまで今の生活（主に補償）を続けていくのだろう…と思います。もっと助けてあげなければならない人たちがいるはずなのに…、と。少なくとも避難民たちが困っているようには見えません。避難解除になった地域は、もう帰ってほしいです。郡山に残るなら、税金や医療費など、私たちが当たりまえに払うお金を、同じように払ってほしいです。そして、避難民を見ると、そんなことを考えている自分にガッカリです。

・月日が経つのが本当に早いなと思います。行方不明になって未だに見つからない人もいてかわいそうだし、その家族もつらいだろうなと思います。しかし、未だ避難生活をしている人を見ると、そろそろ新しい土地に落ち着いたらいいのにと思ったり、避難してきて立派な家を新築し大きい車に乗っていたりする人を見ると避難（被災者）してきた人たちだからお金には困ってないよね、というふうに見てしまいます。私は、勝手に多額の補償を受けていると思っていて、こんなふうに思ってしまうので、実際の賠償内容を公表してもらえれば、避難（被災者）を見る目が変わるかもしれません。

・災害で自宅を離れて暮らすことになってしまった方々は気の毒に思います。しかし、新しい土地、車、家などを購入し、新しい環境でスタートされている方は、私達と同じく医療費、税金など自分達の力でやっていかれてはどうだろうかと思います。今現在困っている方（近所で台風19号で被災された方）にその分まわしてあげてはどうでしょう。

・東電から賠償金を受けとって楽な生活をしている避難民が近所にたくさんいることが許せないです。近所には復興住宅が4棟あります。お金を

受けとりつつ安い賃貸で生活しているのだろうと思います。また、近所に２～３区画分の土地を買い、大きな家に住んでいる人をみると、避難民なのかと勝手に想像してしまう自分の心が痛いです。

・避難生活をされている方は、とても大変な思いをしているかと思いますが、今でも働かずに賠償金で生活しているにもかかわらず新車の購入等で生活水準が高いのが気になります。我が家も自宅が全壊で辛い思いをしていましたが（放射能も…）不公平感が否めないのが正直なところです。難しい問題だと思います。

・ずっと思っているが避難してきた人達の復興住宅は、必要だったのかな？いっぱい住宅できたけど、入居している人は少ない。それに、もんくばっかり言っている。「せまい」「うるさい」「あつい、さむい」それ以上に福島市民もがまんしてるんだけど…。お金もいっぱいあるからパチンコとかギャンブルばっかりしてるみたいだし。それなら、住みやすいところに引っ越しすればいいのに、なんでずっと避難してきて大変だアピールするんだろうか？

・東電の補償はいつまで続くのか、早く止めれば良いのに、と怒りがこみあげる。街を走っていて、とても立派な家があると、あれは避難してきた人が建てた家だ…と言われる。知人にも一人、たまたま事故の時、浜通りで働いていた人がいるが、しょっちゅう有給を取り、旅行（京都やディズニーランド）に行っている。車は大型の高級車をのりまわして…。誰も何か言う人はいないが、職場で浮いているのは間違いない。不公平感がつのる。またある人は、いつもドクターショッピングをして調子が悪いと訴える。自分は永遠の被害者、そして医療費はタダ。慰謝料を東電に請求し続ける…。こんなことはもうやめてほしい。一所懸命にそのままの土地で生活している人もいるのだから。

賠償の対象、範囲の線引きに対する不満

・未だに避難民の人は優遇され、東京電力からお金をもらい立派な家をタダで建て、いい車に乗り、威張っているようにも思える。国の負債が多

大にあるにもかかわらず、いつまでもそういうことが認められるのはおかしいと思う。結局税金なのでいい加減必要以上の補償はやめてほしい。私たちは手切れ金のように少ない補償金をもらい、税金も他と変わらず払っている。電気料も家も住民税も何でも補助されている避難民の方とは生活の質も全然違い差がある。その点についてはずっと不満に思っている。これからもいつもと変わらずに過ごしていくしかない。将来のことなどなってみないと想像もつかない。

・毎回記入していますが、震災の時に福島の浜通りにいた人のみ補償が手厚いと思う。いつまで補償を続けるのか？そのことでの悪影響をきちんとみてほしい。避難者を受け入れた地区の人々の困りごとをきちんと評価して活かしてほしい。国は、どうとらえているのか？私たちの声は本当の意味でいかされていないと思う。このようなことを毎回書いています。これを書くたび嫌になる気持ちがあります。ここに住んでいる人しかわからない、わかってもらえないと思います。

賠償・補償を望む

・補償の差に納得いきません。せめて、これから、大きくなっていく、今の子どもたちにだけでもゆとり（心身的に金銭的にも）のある生活をさせてあげたいです。

・子どもの成長で、今後、影響が出てきたりしないか心配に思う。子どもが大人になった後、原発事故の影響で病気になった場合の補償は永遠にしてほしい。

10　行政・東電・その他に対する不満・要望・意見

不満・要望・意見は、「行政」、「東電」、「その他または対象不明」、「原発の是非」の４つに分けられる。

（1）行政

行政に対して、様々な要望が出された。

行政の対応

・原発事故の避難区域の地点も、少しずつ帰れるようになっているけど、本当に安全なのかな？と思う。費用が大変だから、帰すようにしているとしか思えないです。

行政への要望

・二度と同じような事故は起きてほしくないということと、放射性物質は目に見えないので今後もモニタリングは継続してほしいです。

・式典も、10年でとりやめというのを見て、国・政府はもう対応しないんだろうなと思いました。新たな災害が起き、そちらに手を回さなくてはならないのはわかります。けれども、やはり、国の上の人たちは、将来の日本のことを考えていないと感じます。自分が生きている間だけ、日本が機能すればいいと思っているように感じます。今の子どもが大人になったら？地球環境は？汚染（空気・土）は？今の子どもに誇れるものを残してほしいと思っています。

・福島は、子どもの教育の場としては、少し足りないところが多いと思います。先生が優しすぎる。震災後の心の影響を考えての教育方針なのでしょうか。たまたまうちの子の学校がそうなのかもしれませんが。心身共に強い子に育ってほしい。県外の子に負けない子に育ってほしいと願ってしまいます。「福島だから…」と言いたくないので、教育もスポーツも子どものために力を入れて福島市、福島県、トップに立つ人に頑張ってほしいと思います。

（2）東電

東電の原発事故対応に対する怒りや不満の声がある。

・東電が、賠償金などの支払いにまわす分を、電気代の前には無かった項目を作り、そこから徴収しているという話をしている人もいて、前より電気代が上がっていることはすごく嫌な気持ちになります。太陽光発電を無料で設置させるとか、（私の家にはそれはありませんが）その発電

料は少しでも福島は高く買い取るようなことをして長きにわたって支援してくれてもいいのではと思います…。

（3）その他または対象不明

対象は明記されていないが、事故後の対応についての不満や要望、意見を持っている人が多くいた。

・原発事故が与えた影響は大きいですし、原発にたよる生活は見直すべきだと考えます。

・震災時節電と言って街灯などの灯りをあちこち消してあって、すごく暗く、さびしかったこと覚えています。が、今もそのまま、街が暗いままです。復興したいのなら、街を明るくしなくては、気持ちまで暗くなると思います。せめて街灯くらい、明るく道を照らしてくれないと、いけないと思います。前向きに生きていく為に少しですが、市が、県が、国が、皆の気持ちに寄りそってくれると思えるようになりたいです。

（4）原発の是非

原発事故を経験し、原発の安全性についての不安の声、原発再稼動について否定的な意見が多くみられた。

・福島には今住んでいないので、原発事故のことはあまり取り上げられず、よそのことという認識が強いと思います。あんなに大変な思いをしたのに（たくさんの福島県民が）原発がなくならないことが信じられません。自分の住んでいるところが影響を受けなければいいじゃん的な考えが根底にあるのでは…。がっかりです。何年たっても、東日本大震災のことは忘れられません。東京など大都市が同じような被害を受けないと、原発ゼロというふうにはならないのではという気がします。

・原発は大切であると考えますが、二度と福島の事故のようなことがないように二重にも三重にも配慮してくれる国や東電関係者にお願いいたします。

11　健康

（1）子ども

子どもの健康に関する意見は、ア「身体影響」、イ「精神影響」、ウ「発達（体力・機能）」の３つに分けられる。子どもの現在の体調不良を不安に思う声や、将来の健康へ不安を抱いているという声が多くあった。また、将来の妊娠・出産や、精神的な影響、外遊びできなかったことによる成長・発達の遅れがあるのではないかと心配する声もあった。

ア　身体影響

現在の健康不安

・体の不調がもしかしたら 3.11 の影響かもと思ってしまい不安がつのることが多い。子どもの咳や、のどの不調が年中のため、大丈夫かどうか心配。
・検診や甲状腺検査で数値が悪かったり、のうほうができたりしていると、やはり影響があったかと不安になります。

将来の健康不安

・これから先の子どもたちの将来健康でいられるのか？心配である。目に見えない物なので、不安だ。
・明らかな身体への影響がないので、どんどん当時の不安な気持ちは薄れています。ただ、時々ふと、本当に大丈夫なのかな、とか、あと数十年後とかに影響が出たら、補償はしてもらえるのかな、生きていくのに不自由はないかなと思うことはあります。
・起こったことがなくなるわけではなく、将来の自分や子どもの健康に何か影響があるかもしれないという不安は解消されることはないと思います。
・今後の子どもたちの身体への影響がとても気になります。日本に住み続けることに不安を感じます。
・今なお放射能で汚染されていることは変わらないので、これから先の家

族の健康、特に息子の健康が一番の気がかりです。

・子どもたちの身体に何か異変が現れるのではないかと日々不安に思っています。放射能の影響がどのくらいあるのか、これから病気として現れてくるかもしれないという心配はずっとあります。

・9年ですか。あっという間でした。子どもはすくすく育ってくれているので、いつも心配というわけではありませんが、大きくなるごとに、頭の片隅に、大人になって幸せな生活を送れるだろうかと思います。大きな病気がなく育ってくれたら…と思っています。

・子どもののう胞が年々大きくなってきているので将来の健康への不安はずっと抱え続け感じ続けると思います。

・まだまだ9年。早く放射線無くなれ。子どもが子育てする頃我が子まごに影響ありませんように！！

・甲状腺がんも因果関係は無いとされ、やはり自分自身で大切な子どもたちを守るしかない。今毎日気をつけてることが、10年後、20年後に繋がると信じて続けていこうと思っています。聖火リレーでいつも毎時公表されていた、放射線の数値より高い所が多々あったのも、健康に影響がないとされていますが、ずっと公表してた数値と違う事については、誰も何も言わず疑問です。言った所でもみけされますが…。

甲状腺検査

・甲状腺の検査をすると、長女はいつも所見ありの経過観察となります。精密検査が必要なほどではないようですが今後が心配です。

震災・原発事故による影響

・調査対象の子どもが低身長のうたがいと診断されました。原発事故の影響を疑ってしまいます。今後身長は伸びるのか？このまま低身長のままだったらと考えると申し訳ない気持ちで、どうしたら良いのか不安です。

・9年も前のことだったんだとしみじみ思いますが、あの恐怖は忘れられません。子どもの体のことはつねに心配しています。特に下の子は病気で何箇所も骨に異常が出ていて、もともとの病気だったかと思います

が、原発に原因があるのではないかと、思ってしまったりすることがあります。とても不安です。

将来の妊娠・出産

・今でも福島に対する差別の目があることは確かだと思います。今のところ健康状態も良好ですが、子どもが大きくなってきて、これから思春期に入り、結婚や子どもをもつということが、普通に、当たり前にできるのか親としては心配です。

・子ども達が大きくなり、他県に行ったとき、福島県出身で何か思われたりしないか？妊娠、出産、男だったら精子にも問題ないのか？逆に他県の人と結婚して、相手や相手の親から子どもを作ることに対してイヤなことを言われないか、心配はしている。

健康である

・今のところ健康状態は良好ですが、まだまだ心配は正直の所つきません。体調管理、検査をしっかりしていくことで、安心してくらしていけるようにしていきたいと思います。

・9年が経とうとしていますが、子どもたちが元気に成長してくれて、今のところは健康面も心の面も特にありません。事故当初と大きく変化したことは、良くも悪くも何もないと感じます。

イ　精神影響

現在の精神影響

・うちの子に限ってかもしれないが、兄姉と違い自分から（内側から）の欲求があまりない気がする。保養やキャンプ先で与えられる遊びや課題に慣れてしまい、何かがしたいとか欲しいとか、わかりやすい欲求が自分でわかっていない気がする。ガマンさせないようにと思って、いろいろ工夫したつもりではいたが、そのやり方が正しかったのか、今とても悩んでいる。どうすれば自分の気持ちに気づくことができるのか、試行錯誤の日々である。

・もともと過敏なタイプでしたが、震災での「怖かった」ことは今でも影響があるようです。（当時、3日位ずっとおんぶしていて、おろそうとしてもおりてくれませんでした。）少しの揺れでもふるえて抱きついてきます。主治医からも「覚えてなくても恐怖心は残っている」と言われています。不安が強いタイプの子どもなので様々な面でその影響を感じることがあります。今の所、健康に成長できていて安心しています。将来、何も無く過ごせることを祈るばかりです。

ウ　発達（体力・機能）

幼いころ外遊びがあまりできなかったことの影響を感じるという意見があった。また、昨今のコロナ禍で自由に外遊びができなくなり、震災後の生活を思い出すという意見もあった。

・子どもも大人も、震災後の肥満の人が多いように感じ、少し調べてみたところ、もともと福島県は肥満が多く、3.11以来さらに増えたとのことでした。体力、運動能力も落ちていて、SNSやネット等の利用は多く…等々、体力や情報関係（ネット）教育に、問題が出てきているように感じます。放射線がどうの…とさわいでいた時代がすぎ、見えない問題が出てきているのでは…？と思います。

・原発事故から9年がたち、ようやく元の生活ができるようになったのに、コロナでまた、子どもたちが外へ出かけられない生活がはじまり、震災のことをおもいだし、少しやるせない思いがある。福島の子どもは、多感な時期に外遊びができなかったから、体力的に問題があると思っていたのに、またコロナの件で、1ヵ月以上も家の中にいることへの不安がある。

（2）親

親の健康に関する意見は、ア「身体影響」、イ「精神影響」の2つに分けられる。現在の体調不良に不安な気持ちを抱いている。また、地震が起

こったり、事故を思い出したりすると、精神面での不調が現れることを訴える親が多い。特に昨秋の台風災害で震災を思い出したという意見は複数あった。

ア　身体影響

・自分の不調も多く、たまに鼻血が出る時も一瞬よぎる。

イ　精神影響

・震災当時２才と生後５ヶ月だった子どもたちが、小学校の５年生と３年生になりました。たまにテレビなどで地震の時の映像がながれたりすると「昔あんなことが本当にあったの？私たちその時どうだった？」と聞いてきたりします。子どもたちは昔と言っていますが、私にはついこの前のような気がしてなりません。確かに９年の歳月は経つのかもしれませんが、あの大きな揺れ、大泣きする子どもたちの声、寒くて暗い家の中、水や食糧を求めて集まる人々、忌まわしい原発事故、日々流れるニュースに胸を痛めた日々は今でもはっきり覚えています。忘れることなんてできないです。

・最近また地震が多いなと思うことがあります。TV のテロップに地震速報が流れると、あの日の恐怖心がよみがえってきます。震度３程度でもあの日のことがフラッシュバックしてきたり、津波のシーン画像を見ると涙があふれでてきます。もう二度とあんな思いをしたくない、自分に何ができるのか？福島に生まれ育ったことをほこれる日は来るのでしょうか？子どもには何事もなく育っていってほしい。そればかりを願います。

・自分の２番目に産んだ子と同じ年数、月日分、震災から過ぎていこうとするのもあるし、やっぱり当時の大規模災害は、今でも昨日のことのように覚えています。風化が進む中、私はまだその当時に立ち止まる部分もあり、忘れた頃に災害アラームが鳴ったり、他地域の災害情報を見た

り聞いたりすると、未だに動揺してしまいます。水の備蓄や災害避難グッズは常備して、災害に遭ったら、子どもたちだけは生きのびさせようと常に考えています。当事者にならないと災害の恐怖や不安は計り知れないと思いますが、第三者の方々に風化せず伝えていってほしいと思います。

・放射能についての心配・不安感は少なくなってきたのですが、地震に関しては、少しの揺れ、音でも未だに過敏になっています。いつ大きい地震がくるのか不安は大きいです。

台風で震災を思い出した

・10月の台風で、市内が浸水し自然災害をうけました。つい昨日まで普通に生活していた町が、浸水し、風景が変わってしまいました。忘れかけていた震災の時のことを思い出し、辛い気持ちになりました。もう何も変わらない生活を送っていて、震災のことは心の中で受け入れていたと思いましたが、何か災害等、思い出してしまう出来事がふと起こると、涙が出てきます。そのくらい、心に残ってしまっているのだと思います。被災したすべての方々、同じ思いでいるのかもしれません。

・台風19号で水害にあいました。床上260cm、2階の床上まで水が上がり全壊です。近所で数名なくなり、辺り一帯ひどいものでした。水害の後片づけは本当に大変で、1カ月、2カ月、3カ月、あっという間に年が明けてしまいました。たくさんの物を失い、生活もガラッと変わってしまいました。それなのに、人によって違うと思いますが、私にとっては原発事故のほうがはるかに辛かったのです。あの時のほうがずっとずっと恐かったし苦しかった。大爆発で福島全体が壊滅してしまうのでは、という恐怖。知識もなかったので何を信じればよいのかもわからない。少し落ち着いてからも数カ月間、私が外出すると子どもも出たがるので、自主避難先から戻る月半分は、窓も開けずに家に閉じこもっていたこと。避難先でも、「福島県民」とは言えなかったこと。知り合いもいないこと。どんなに辛くても、子どもが不安にならないように、元気

なフリを続けること。水害でいろんな物を失くしましたが、学校もすぐ再開し、大勢の人が片付けの手伝いにかけつけてくれ、自由に外出できる今のほうが、ずっと精神的には楽です。外に出ることもできず、放射性物質による汚染に振り回され、様々なことに気を使い、事故後数年はひどいストレスだったのだと水害にあった今、よくわかりました。

・今年度は台風19号の被害もありましたが、自分の住んでいる地域で災害が起こり、あの当時の恐怖や不安を感じていた自分を思い出しました。スマホから鳴る避難指示などの知らせ、なんとも言えないのですが、自分の身に危険がせまっていなくても、ドキドキ、ハラハラしてしまっている状態でした。それだけ、あの当時のことは、トラウマではないですが、自分に与えた影響はとても大きかったのだなと思います。

また災害があったら、という不安

・もう9年になるんですね。最近またいろんなところで地震が増えてきたので不安です。また、大きな地震がきたら、もう福島には住めなくならないだろうか不安です。

・最近地震があり、関東で地震がおきたら…と不安です。日本のどこも地震を考えると住むのは不安です。ちゃんと対策はできているのか…また多くの人が死んで日本は終わるのではと思う事があります。

12　事故後の思い

（1）復興への思い

復興へのさまざまな思いがあり、前向きに過ごしたいというような意見が多くみられる一方、復興の難しさを感じる人もいる。また、東日本大震災、昨秋の台風災害と大きな災害を経験し、防災意識が高い人が多い。

復興が進んでいることを実感

・震災以降、不便になっていた交通網も今年のオリンピック開催と共に復興が後押しされて晴れやかに希望がみえてきたな、という印象です。

復興を願う

・東日本大震災から早9年の月日がたちますが、まだまだ問題が山積み…。原発問題も実際、どうなっているのかもわからないまま…。昨年は、台風19号もあり、各地で水害もあり、次々と、天災が増えていく一方です。子どもたちの明るい未来のために、あの9年前の大震災など知らなかったあの頃の楽しい日々に戻る日が来ることを願うばかりです。

・昨年の台風19号により、福島にまた大きな災害がありました。仕事で災害復旧にたずさわることになり、今も忙しい状況です。子どもたちが小学生になり、手がかからなくなってきたので、かわいそうですが仕事を優先せざるを得ず、学校から帰って寝るまで子どもたちだけで過ごす日々が続いているところです。（土日もようやく休めるようになりまして…。）ふと思うのが、あの震災の時も、今の私みたいに災害からの復旧にたずさわる親子がいたんだろうなあということです。更にあの時は「放射能」という不安もあり、その時の精神的な辛さは想像しきれないです。本当に原発事故は多くの家族にたくさんの影響を与えてしまった事故だと思います。帰還困難区域の一部解除が進んできており、もうすぐ、双葉町や大熊町、富岡町も新たに3月に一部解除するとのこと。もとに戻せることはないと思っていますが、新しく町ができていって、昔のにぎわいに近い状態となっていけばいいなと心から思います。

前向きに生きる

・まもなく9年なのですね。はじめの5年にくらべて、そこからは、事故に対して意識しない4年をすごしたように思います。きっと浜通りでは、1年、1年が大きく、今も事故の現場作業が続き、進行を感じられるのかもしれません。私たちの中通りは、目に見える復興はおちつき、話題にもならないくらい…。でも、新聞やTVで東京オリンピックに向けて、「福島産のものを…」「福島の会場を…」と声を上げ活動を続けてくださる方がいること、ありがたいと思うところです。私たち福島県民1人1人が、この特別な土地で、1日1日を生きる…忘れがちです。私

が何ができるというわけではありませんが、今を懸命に生きながら、福島に住んでいることにプライドを持ち、強気で未来に向かっていけたら…いいなと思います。

前に進むべき

・まもなく9年、大震災からもう9年経つんですね。昨年1年だけでも台風などの自然災害で、様々な地域が被災しました。いつまでも原発事故を理由に復興しない福島県。自分の県なのに、自分たちの市町村なのに、他県の除染作業員が助けてくださっていることに感謝し、福島県特に浜通りの方々も自立の道を行かなければならない時期ではないでしょうか。他県の方々はもっと苦しい思いをして、それでもはいあがって復興しています。福島県民は、はい上がれる力を十分にもっているはずです。また、はい上がれる力を十分にいただいたはずです。原発事故を理由にパチンコ etc をしている場合ではないと思います。

・これだけ多くの災害が起こって、被災者の方々が大変な思いをしている中で、東日本大震災・原発事故ばかり特別扱いしていいのかと思う。補償や支援が乏しい中で、自ら復興している方々には頭が下がる思いだ。

復興の難しさ

・イノベーションコースト等、浜通りを中心に復興の勢いを感じる。一方で立入禁止区域の制限が解除になっても戻る人が少なく、戻る環境は整いつつも、9年経った今、福島から気持ちが離れている人も多いと感じる。福島に残った人、県外へ避難した方々にとっての「復興」の差を感じる。

・まもなく9年…時間のたつのはあっというまです。震災だけでしたらとっくに復興していたと思いますが原発事故の復興というのは子どもの代になってもできていないのでは？と思います。それでも福島は良い処です。野菜も果物も、お酒もおいしいです。他県のみなさん、他国のみなさんにも恐れず来てもらえたらいいなと思います。

・先日（1/11）元避難指示区域の成人式に行ってきました。住民票が残っ

ている人の名前が載っていましたが、実際参加したのは60名ほどでした。（移転して、開校していた中学校で中3を担任した子たちが20歳です。）高校時代の仲間と、楽しむことの方が楽しそうだったのか、いつも登校していた6人の生徒のうち会えたのは2人だけでした。復興住宅に移ったり、就職や進学などを機に転居したり、住民票を移したりして、生徒たちに聞いてもどこにいるか不明な生徒もいます。個人情報ですので、なかなか、手掛かりがつかめないように思います。福島から、114号（国道）は、スムーズにいきましたが、脇道に入るところにはバリケードがあり、まだまだ復興には時間がかかるな…と感じました。なかなか元避難指示区域に行くことは、なくなりましたが、貴重な時間となりました。

復興に疑問

・帰宅困難地域の一部解除であったり、聖火リレーのルートに組み込んでみたり、オリンピックに便乗した復興アピールで根本的な問題が何も解決しないまま、おざなりな対応で終わっていくのだろうなと思ってします。何をもって「復興」なのか。パフォーマンスでその言葉は使ってほしくない。

映画を見て

・ちょうどこのアンケートを記入する日に、夕方のテレビで、福島原発事故の映画をやるというのを見ました。監督さんや主演の佐藤浩市さんや渡辺謙さんが出ていて、原発事故のリアリティさを重要視し、本当にあったことを再現したものであり、福島から発信し、全国、世界の人々に見てもらいたいと話されていました。映像も少し流れ、水素爆発が起きた実際の映像や再現された津波の映像だったりを見て、涙が止まりませんでした。自分の住むところは、停電や断水の被害はありましたが、他の方々のようにそれほど大きい被害はなかったので、いつもの生活に戻り、放射線量の数値も低いのでそれほど心配や不安はないと思っていました。しかし、映像を見ると胸が苦しく、あの時の恐怖や不安を感じた

のです。二度とあってはいけないことですが、いつまた起こるかわからない、自然災害は防ぐことはできないので不安になりました。また、昨年の台風でも梁川町が浸水する災害がありました。まさか、こんなに大きな災害が起こるとはだれも思っていなくて、しばらくの間、町中はひどいものでした。今でも、浸水し、避難されている方や、家の２階で生活されている方もいます。原発事故が起きた時、長男が年中（4歳）長女が２歳、次男を妊娠中で、まだ５ヶ月ぐらいのときでした。子どもたちは、ほとんど事故のときのことを覚えていません。映像でしか知らないのです。忘れてはいけないと思うので、原発事故の映画は、見せたいと思いました。津波で亡くなられた方々もたくさんいてそのご遺族はもっと見るのがつらいと思いますが、こうやって映像が残され若い人たちにも知ってもらうということは必要なことだと思いました。また、実際福島原発にいた現場の人たちのことは、その場にいないとわかりません。ずっと補償問題などでさわがれていましたが、どれだけ現場にいた人たちががんばってやられていたか今まで考えたこともなく、映画の映像では、死を覚悟して現場に残り、必死に事故対応していた映像が流れ、初めて現場にいた人たちの気持ちを知ること、感じることができたと思いました。今までは自分たちのことばかり考えていたのかもしれません。映画を見て、もう一度、この原発事故について考えたいと思っています。

まちづくりの希望

・昨年の台風で郡山市はまたダメージを受けました。福島県で住む人たちのためにも、災害があっても強い町づくりをしてほしいと思います。
・台風19号による被害も重なり、安全な町づくりの大切さを感じる。東日本大震災での教訓を、他の災害に役立てていけるといいと思います。

防災意識の高まり

・昨年の10月に台風の影響で、息子の通う小学校が床上浸水の被害にあい、２ヵ月ほど、別の小学校に通い、住む家を失い転校する友達もいま

した。新学期からやっと、母校に戻ることができましたが、まだ、1・2年生は別の小学校に通っています。震災はいつ起きるかわからないことを肝に銘じて、災害の恐ろしさを決して忘れてはいけないと改めて思いました。

・あっという間に震災から9年が経とうとしています。少しずつ復興も進み、ちょっとずつ震災を過去のこととして忘れてしまいがちですが、日本は、またいつ、どこで災害が起こるかわかりませんし、この地域は安全だ！という認識が崩れつつあります。なので、常に防災意識を持って何かあっても対応できるようにしていけたらなあと思います。地域の方との協力も不可欠になると思うので、日頃から声を掛け合えれば良いなとも思っています。

・昨年は郡山市内で台風による水害の被害がありました。幸い、私たちの住んでいる地域に被害はありませんでしたが、通勤経路が水害で寸断されました。その影響で仕事の予定も大きく変わり対応に追われました。また、初めて災害ボランティア活動に取り組む中で思い起こされたのは、震災時の自分の状況でした。震災当時は幼い子どもを守ることに精一杯で人様のお役に立てるような状況ではなく、自分を社会的弱者の立場と捉えていました。でも今は、子どもたちが無事に成長していることで、ボランティアができるような立場になりました。この9年間の子どもたちの成長と自分の置かれている状況の変化はとても大きく、現在の状況が大変ありがたいと感じています。コロナウイルスが連日ニュースで取り上げられていますが、自分と子どもたちの体調を整え、毎日いつも通りの生活を送れることがいかに大切かということを感じます。そして、自分が元気でいることは誰かの役に立つためにも必要なことです。自分を守りながら社会に貢献できるような生き方ができればと思います。

・昨年10月、私の職場が台風の影響で水害にあい、片付けをしているとき、原発事故のときを思い出しました。近所の方々も寒い中、無言で片

付けをしている姿を見て、地震のときにニュースで見た光景と一緒だなと思い悲しくなりました。未だに水害で以前の家には戻れない方々が多くいます。原発事故で何年も戻れなかった方のことを思うと心が痛みます。また、浪江から避難され本宮に家を建てて水害に遭われた方も沢山いて気の毒で仕方ありません。本宮には浪江の方が多く住まれていますが、一度災害にあうと戻る気がしないとみんな言っています。今回水害にあった方も、同じ場所に家を建てなおすか、高齢の方は特に迷うそうです。原発事故がありましたが、被害が、症状などが目に見えていない分、そういった家を失った方々に比べると幸せなんだなと思います。

・1/17 の今日は阪神・淡路大震災が発生した日であることを今朝のネットニュースで思い出しております。家族を亡くした遺族の方の、癒されることのない思いを見聞きすると胸がしめつけられる思いです。幸い我が家は家族を失うことも、自宅に大きな被害が出たわけでもないことを振り返ると、今ある生活が幸せであることを感じております。これからいつ見舞われるか分からない健康被害に怯えて暮らすより、ある日突然やってくるかもしれない寿命があることを考えれば、今置かれた環境で日々を過ごすことに意味があるように感じています。我が家は子どもに心配事があり、悩まされております。放射能の被害の心配をする余裕もない心境です。放射能の被害について心配をすることが出来るのは、もしかすると気持ちに余裕のある生活を送れているということなのではとも感じている今日この頃です。明るくは過ごすことが出来ない日々ですが、命があることは、やはり生きる意味があること、そのように思っております。また昨年は台風 19 号での被害も大きく、これからはむしろ、新たな災害による被害が起こることの心配があります。個人で出来ることは限られていると思いますが、備えられること、出来ることを行っていきたいと思っております。

（2）子どもたちへの思い

子どもたちへの思いに関する意見は、ア「子どもたちに伝えていきたい」、イ「子どもたちへの希望」の2つに分けられる。

ア　子どもたちへ伝えていきたい

子どもたちへ震災のことを伝えていきたいという意見がみられた。また、将来子どもたちが自信を持って生活できることを願う声もあった。

家族で話し合いたい

・私の住んでいる地域（地区）は、水災害、地震などもあまり影響がなくやや安心してはいられます。他の地域での災害についても考え、身近に起きることなんだと子どもといっしょに話し合いは続け今後も意識できる生活ができればと思います。原発は別問題ですけどね…。

震災のことをきちんと伝えたい

・もう9年になるんですね。（自分の中でも風化はすすんでいますね。）アンケートの中に、災害のことを思い出さないようにしているや話題にしないようになどの問いがありますが…。私はそのような意識はなく、むしろTVなどでその時の映像を見たり、話題にしたり、子どもといっしょに行います。ここ最近の日本を見ても、いつどこで自然災害が起こるか分かりません。先日の台風19号も同じです。私の住む本宮市も場所によっては大きな被害を受けました。子どもといっしょにふり返ったり考えたりすることは重要かと考えます。

・原発事故から9年、10年目になりますが、ここまで事故がなかったら経験できなかったようなことが1年1年あったように思います。その間も自分の思いとは関係なく子どもたちは育っています。当時居た所も子どもたちは覚えていないと思います。未来に向かって逞しく成長していく子どもをこれからも一日一日応援すること。親として、成人するまで見守っていきたいと思っています。

・あっという間の9年間でした。子どもは震災のことはまったく覚えてい

ないようで震災・原発事故があったことも他人事です。当時の年齢を考えると無理もありませんが震災、そして原発事故があったという事実は今後も忘れてほしくないし伝えていきたいと思っています。

・普段、忙しく生活していると、震災を忘れがちになります。子どもが当時、幼稚園で、家族でご飯を食べる時など、祖父母も含めて、みんなで震災の話題があがるときがあります。こうやって、子どもたちから語りつがれていけばいいなと思います。何気ない日常が普通の幸せなんだと感じます。

・子どもも大きくなり毎日日々過ごしてくのに精一杯、忙しく過ぎています。色々な災害が多く、たくさん望むことはありますが、子どもも元気でみんな一緒に日々をすごせていることただそれだけで良いと感じられる時が多くあります。気持ちにゆとりが持ててきたと思っています。そして今…大きくなった娘に震災の時の話をたくさんしています。命の大切さを伝えてあげられたらと思っています。

・子どもたちが小さかった頃は、公園など、外遊びができない現実をかわいそうに思ってましたが、現在は除染も進み、何も不自由なく過ごしています。原発事故について話題になることはほとんどなく、当時をふり返って、思い出話をするくらいです。子どもたちは9年前のことをほとんど覚えていないので、風化させるのではなく、当時のことを、語りつないでいけたらいいなと思っています。

イ　子どもたちへの要望

・秋に台風被害があり、現在は震災よりも台風の水害の影響が大きいです。息子は学校が浸水し、他の学校に通っていましたが、12月後半よりようやく元の学校に戻りました。なぜこんなにも災害が多いんだろう…と思ってしまいます。この経験が将来、マイナスではなくプラスに働いてくれれば…と思います。ほかの人を思いやれるような優しい気持ちを忘れずにいてほしいです。

・昨年は台風19号で子どもたちの大切な学校が水害被災にあってしまいました。この先どんな災害があるかわかりませんが負けずに強く元気に育ってほしいと願うばかりです。

（3）不安はなくなった

不安はなくなった、精神的に安定した、という意見があった。

・原発事故後、体への影響をいろいろと不安に思い心配でしたが9年という月日がたち、その気持ちも落ち着いてきました。ただ、震災と原発事故のことは、きちんと子どもたちに伝えていかなくてはいけないと思うので、3.11には毎年話をしています。

・東日本大震災から、もう9年になるのかと、早いなぁ～と思います。というか、日々の生活では、すっかり忘れて、いつも通りにすごしているので、時々あちこちで地震があると、日本は地震が多い国だから、なんとか普段通りすごせているだけよしと思っています。このまま、あまりひどくならずすごせるといいなと…。自然災害も多いので、気をつけたくても難しいこともあると思いますが、みんなで無事すごせるようにと思います。

・二本松は、仮設住宅もなくなってきて、ほとんど以前のようになってきました。浜通りの方も、表面上しかわかりませんが、皆さんと、仲良く、生活されているようです。学校のほうでも、特に、外遊びなど制限もなく、本当に、以前のようです。このままおちついて生活していきたいと思います。

・いつになったら原発事故が終わったと言えるのか。本当に安心と言えるのかがわからない。今後のことは不安はあるが、現在は何事もなく暮らせている。この安定した生活を続けていきたい。

・時が過ぎるのを早く感じます。生まれて8か月の時に震災にあいましたが、二人の子どもはとても元気に毎日を過ごしていて、風化ではなく、少しずつ自分たちの生活と元の気持ちを取り戻しているのかもしれませ

ん。私たちは家も残って今の生活ができていますが、震災のひどい地域にいた方たちは未だに大変な方も多いと思います。早く心がおだやかに、落ち着いた生活が戻ることを願っております。

・線量もあまり気にせず、毎日過ごしています。地元産の食品も買い、何不自由なく暮らしていますが、最近地震が多いことが気がかりです。また大地震がおきなければいいのですが…。

・放射能の体への影響など、まったく気にしなくなりました。娘も小学5年生になり、友達と公園で遊ぶ時間が増えました。原発事故前の生活スタイルに戻り、気持ちも安定しています。高校、中学、小学、幼稚園の子どもの生活を支える専業主婦として、時間に追われる生活で、時々はイラっとしますが、日々の生活の中で、幸せを感じています。

13　2020年の母親たちの声に関する総評

（1）各項目の自由回答数

下記に示す分類項目の自由回答数は絶対数ではなく、読み手の主観によって数えられた数字である。また、項目間で重複して数えているものもある。2013年、2016年、2020年の大きな変化を捉えるために、自由回答数を示している。括弧内はすべての自由回答数に対する割合である（2020年4月20日時点）。

		調査年	2013年	2016年	2020年
		回答数	1202	612	374
1		生活拠点	632(52.6)	294(48)	85(22.7)
	(1)	避難関係	352(29.3)	99(16.2)	40(10.7)
	ア	避難継続中	61(5.1)	30(4.9)	10(2.7)
	イ	避難したが戻ってきた	50(4.2)	10(1.6)	10(2.7)
	ウ	避難したいができない	149(12.4)	22(3.6)	4(1.1)
	エ	避難しない	68(5.7)	35(5.7)	12(3.2)
	オ	その他	24(2.0)	2(0.3)	4(1.1)

		調査年	2013年	2016年	2020年
	(2)	保養関係	57(4.7)	36(5.9)	15(4.0)
	ア	保養プログラムの拡充を望む	29(2.4)	17(2.8)	4(1.1)
	イ	保養に満足した	5(0.4)	8(1.3)	2(0.5)
	ウ	その他	23(1.9)	11(1.8)	9(2.4)
	(3)	除染関係	223(18.6)	159(26)	30(8.0)
	ア	除染にある程度満足している	9(0.7)	23(3.8)	10(2.7)
	イ	（実施の有無にかかわらず）除染に不満がある、除染の効果に疑問がある	119(9.9)	92(15)	5(1.3)
	ウ	除染を望む	66(5.5)	9(1.5)	1(0.3)
	エ	その他	29(2.4)	35(5.7)	14(3.7)
2	食生活		155(12.9)	75(12.3)	34(9.1)
	(1)	地元産の食材や水道水はできるだけ使わない	78(6.5)	28(4.6)	8(2.1)
	(2)	地元産の食材や水道水を使わざるを得ない、使っている	16(1.3)	27(4.4)	13(3.5)
	(3)	学校（保育園）給食に対する不満	18(1.5)	9(1.5)	3(0.8)
	(4)	その他	43(3.6)	11(1.8)	10(2.7)
3	家計負担増加		178(14.8)	40(6.5)	10(2.7)
	(1)	他県産の食材・水の購入費用	57(4.7)	8(1.3)	2(0.5)
	(2)	外遊びの代わり	58(4.8)	9(1.5)	0(0)
	(3)	その他	63(5.2)	23(3.8)	8(2.1)
4	子育て		550(45.8)	156(25.5)	39(10.4)
	(1)	放射能対応（行動）	415(34.5)	89(14.5)	19(5.1)
	(2)	放射能対応	111(9.2)	58(9.5)	19(5.1)
	ア	子どもの検査	101(8.4)	43(7.0)	14(3.7)
	イ	積算計（ガラスバッジ）	10(0.8)	15(2.5)	5(1.3)
	(3)	母親の妊娠、出産	24(2.0)	9(1.5)	1(0.3)
5	人間関係		198(16.5)	74(12.1)	39(10.4)
	(1)	家族・近所・知人	101(8.4)	29(4.7)	6(1.6)
	(2)	外部（いじめ・差別）	97(8.1)	45(7.4)	33(8.8)
6	情報		187(15.6)	96(15.7)	46(12.3)
	(1)	情報不信	114(9.5)	51(8.3)	4(1.1)
	(2)	風評（土地・食べ物）	17(1.4)	23(3.8)	23(6.1)
	(3)	その他	56(4.7)	22(3.6)	19(5.1)
7	風化		34(2.8)	173(28.3)	114(30.5)
8	賠償・補償		190(15.8)	113(18.5)	47(12.6)

	調査年	2013 年	2016 年	2020 年
9	行政・東電・その他への不満・要望・意見	329(27.4)	133(21.7)	36(9.6)
	(1)行政	177(14.7)	72(11.8)	14(3.7)
	(2)東電	61(5.1)	18(2.9)	3(0.8)
	(3)その他または対象不明	70(5.8)	16(2.6)	9(2.4)
	(4)原発の是非	21(1.7)	27(4.4)	10(2.7)
10	健康	541(45.0)	191(31.2)	106(28.3)
	(1)子ども	453(37.7)	161(26.3)	80(21.4)
	ア 身体影響	304(25.3)	140(22.9)	63(16.8)
	イ 精神影響	85(7.1)	12(2.0)	11(2.9)
	ウ 発達（体力・機能）	64(5.3)	9(1.5)	6(1.6)
	(2)親	88(7.3)	30(4.9)	26(7.0)
	ア 身体影響	31(2.6)	21(3.4)	6(1.6)
	イ 精神影響	57(4.7)	9(1.5)	20(5.3)
11	事故後の思い	70(5.8)	64(10.5)	110(29.4)
	(1)復興への思い	40(3.3)	31(5.1)	37(9.9)
	(2)子どもたちへの思い	16(1.3)	13(2.1)	34(9.1)
	ア 子ども達へ伝えていきたい	6(0.5)	9(1.5)	16(4.3)
	イ 子ども達への要望	10(0.8)	4(0.7)	18(4.8)
	(3)不安はなくなった	14(1.2)	20(3.3)	39(10.4)

（2）声の変化：2013 年から 2016 年、そして、2020 年への全体的な変化

全体の件数における声の割合を比べると、原発事故から 2 年後の 2013 年に多く見られた避難をめぐる声、放射能対応（外遊び）に関する声は、時の経過とともに減少している。

事故から 5 年後の 2016 年に目立った声は、除染作業をめぐる意見である。また、2016 年には、風化に関する意見が増え、9 年経った 2020 年も多くなっている。2013 年から 2020 年を通して、いちばん多いのは子どもの健康不安である。身体的な影響、精神的な影響、外遊びさせて来なかったことによる成長・発達の遅れを不安に思う声は続いている。

2020 年には、昨秋の台風被災や阪神淡路大震災 25 年、コロナ禍など、東日本大震災を思い起こさせるきっかけが多かったようである。風化が一

層進むのではないかという声や、防災意識が高まったという声、今後また被災するかもしれない不安の声など、多様な意見が寄せられた。

子どもの成長で親子の生活も変化し、親と外遊びや保養に行くことは減り、部活や友達と過ごす時間が長くなっている。親も子育てにかける時間が減り、放射能の影響を心配しつつも、その優先度は低くなりつつある。風化が進んでいることを感じている人は変わらず多い。その中にも、風化を危惧する声だけでなく、風化が進む一方で、つらい記憶や差別の心配が薄まるといった期待もある。

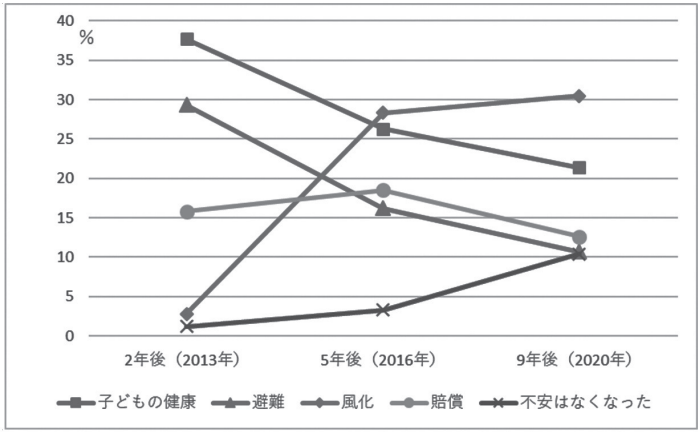

図１　声の変化

（3）アンケートからみる原発事故後の生活変化

原発事故後の生活変化には４つの傾向が確認できる。

１つめは、事故から９年近く経過した時点で、６割以上が「あてはまる」（「どちらかといえばあてはまる」を含む。以下同様）と回答し、高止まり傾向が続いている項目、「補償をめぐる不公平感」である。２つめは、ゆるやかな減少傾向にある項目、「放射能の情報に関する不安」、「いじめや差別への不安」、「健康影響への不安」、「経済的負担感」、「保養への意欲」、

「子育てへの不安」である。3つめは、「あてはまる」が急激に減少し、その後、横ばいとなっている項目、「地元産の食材を使用しない」、「洗濯物の外干しをしない」、「避難願望」である。4つめは、事故直後から該当者が少ないながらも、一定の割合で推移している項目、「放射能への対処をめぐって配偶者、両親、周囲の人との認識のずれ」である。

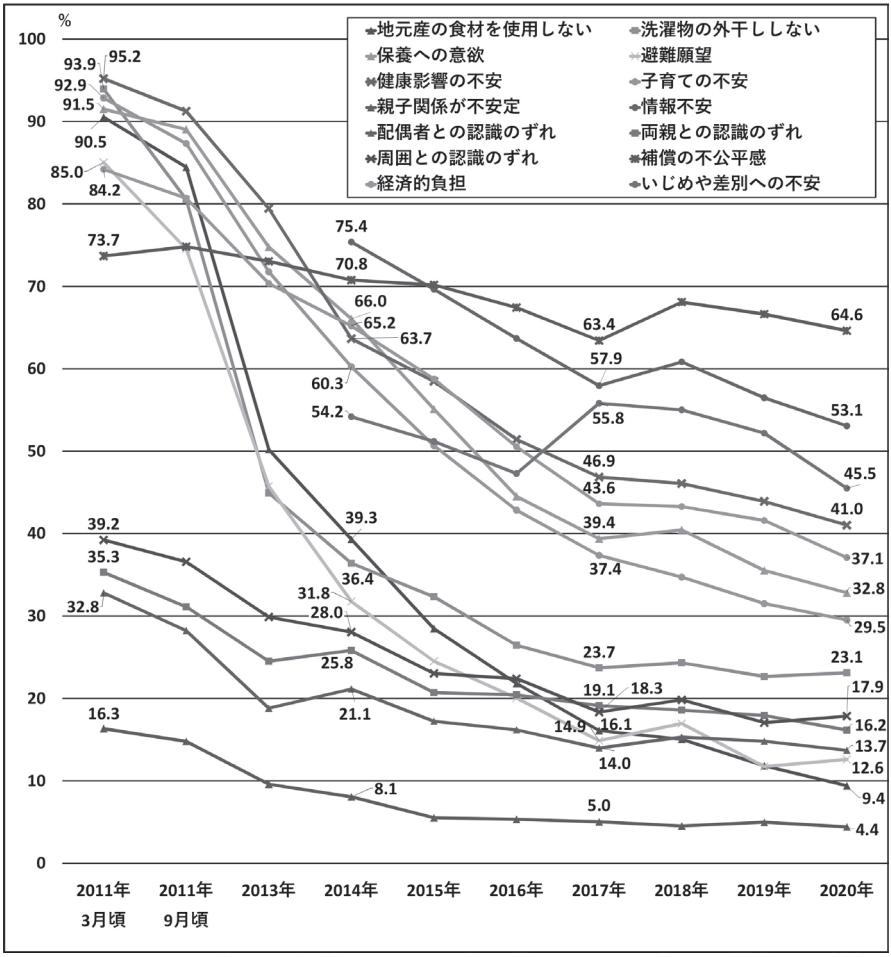

図２　原発事故後の生活変化　＊「あてはまる」と「どちらかといえばあてはまる」の合計割合（%）

次に、風化を感じるという人の割合は、「感じる」と「どちらかといえば感じる」を合計すると、87.3%と9割近くに達する。

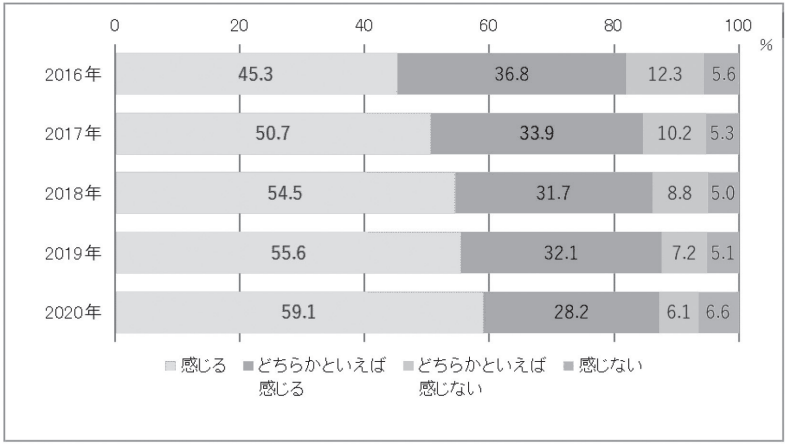

図３　原発事故の風化

これからの福島をどんな街にしていきたいかを複数あげてもらったところ、「学校や教育施設の質がよいまち」が51.7%で最も多く、次いで、「医療や福祉が充実したまち」(47.2%)、「犯罪・事故が少ない安全・安心なまち」(40.3%)、「自然災害に強いまち」(37.9%）だった。

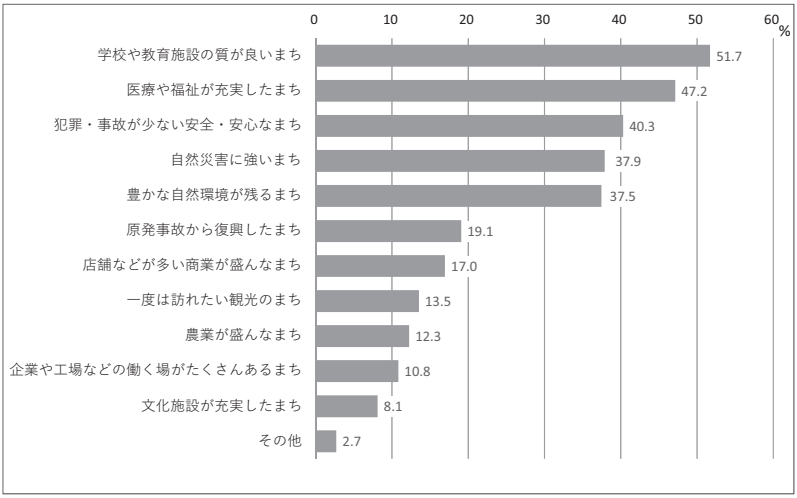

図４　これからの福島をどんなまちにしていきたいか

最後に、自由回答欄に記入した人の「子どもからみた続柄」、「回答者が母親の場合」の年齢層と居住地の内訳を示した（2020 年 4 月 20 日時点）。なお、「調査回答者」とはアンケート調査に回答した人を指す。

〔続柄〕

	第1回調査（2013年）			第2回調査（2014年）			第3回調査（2015年）			第4回調査（2016年）		
続柄	自由回答記入者	調査回答者	記入割合	自由回答記入者	調査回答者	記入割合	自由回答記入者	調査回答者	記入割合	自由回答記入者	調査回答者	記入割合
母	1190	2585	46.03	692	1528	45.29	705	1138	61.95	581	968	60.02
父	11	33	33.33	22	71	30.99	36	65	55.38	27	49	55.10
祖父	0	1	0.00	0	0	0.00	1	1	100.00	1	1	100.00
里親	1	1	100.00	1	1	100.00	0	0	0.00	0	0	0.00
祖母	1	7	14.29	3	6	50.00	4	5	80.00	3	3	100.00
曾祖母	0	1	0.00	0	0	0.00	0	0	0.00	0	0	0.00
全体	1203	2628	45.78	718	1606	44.71	746	1208	61.75	612	1021	59.94
	第5回調査（2017年）			第6回調査（2018年）			第7回調査（2019年）			第8回調査（2020年）		
続柄	自由回答記入者	調査回答者	記入割合	自由回答記入者	調査回答者	記入割合	自由回答記入者	調査回答者	記入割合	自由回答記入者	調査回答者	記入割合
母	528	868	60.83	429	785	54.65	420	772	54.40	352	676	52.07
父	19	41	46.34	19	43	44.19	20	35	57.14	20	36	55.56
祖父	1	1	100.00	1	1	100.00	0	0	0.00	0	0	0.00
里親	0	0	0.00	0	0	0.00	0	0	0.00	0	0	0.00
祖母	1	2	50.00	2	3	66.67	2	2	100.00	2	3	66.67
曾祖母	0	0	0.00	0	0	0.00	0	0	0.00	0	0	0.00
全体	549	912	60.20	451	832	54.21	442	809	54.64	374	715	52.31

〔回答者が母親：年齢層別内訳〕

	第 1 回調査（2013 年）:2585 人			第 2 回調査（2014 年）:1528 人			第 3 回調査（2015 年）:1138 人			第 4 回調査（2016 年）:968 人		
年齢層	自由回答記入者	調査回答者	記入割合	自由回答記入者	調査回答者	記入割合	自由回答記入者	調査回答者	記入割合	自由回答記入者	調査回答者	記入割合
20 代	161	462	34.85	55	158	34.81	29	77	37.66	16	41	39.02
30-34 歳	411	919	44.72	207	505	40.99	189	311	60.77	119	216	55.09
35-39 歳	432	852	50.70	260	543	47.88	281	420	66.90	225	366	61.48
40 代	178	340	52.35	165	311	53.05	204	324	62.96	217	340	63.82
50 代以上	1	1	100.00	0	1	0.00	1	2	50.00	3	3	100.00
無記入	7	11	63.64	5	10	50.00	1	4	25.00	1	2	50.00
全体	1190	2585	46.03	692	1528	45.29	705	1138	61.95	581	968	60.02
	第 5 回調査（2017 年）:868 人			第 6 回調査（2018 年）:785 人			第 7 回調査（2019 年）:772 人			第 8 回調査（2020 年）:676 人		
年齢層	自由回答記入者	調査回答者	記入割合	自由回答記入者	調査回答者	記入割合	自由回答記入者	調査回答者	記入割合	自由回答記入者	調査回答者	記入割合
20 代	8	25	32.00	0	8	0.00	0	4	0.00	0	0	0.00
30-34 歳	75	153	49.02	34	100	34.00	21	62	33.87	8	39	20.51
35-39 歳	195	319	61.13	152	277	54.87	132	250	52.80	84	177	47.46
40 代	243	361	67.31	230	381	60.37	257	435	59.08	235	425	55.29
50 代以上	6	7	85.71	10	13	76.92	9	20	45.00	24	32	75.00
無記入	1	3	33.33	3	6	50.00	1	1	100.00	1	3	33.33
全体	528	868	60.83	429	785	54.65	420	772	54.40	352	676	52.07

〔回答者が母親：居住地別内訳〕

	第1回調査（2013年）:2585人			第2回調査（2014年）:1528人			第3回調査（2015年）:1138人			第4回調査（2016年）:968人		
市町村名	自由回答記入者	調査回答者	記入割合	自由回答記入者	調査回答者	記入割合	自由回答記入者	調査回答者	記入割合	自由回答記入者	調査回答者	記入割合
福島市	426	873	48.80	241	504	47.82	216	358	60.34	185	308	60.06
桑折町	22	34	64.71	13	21	61.90	10	18	55.56	7	12	58.33
国見町	15	27	55.56	8	12	66.67	4	10	40.00	6	10	60.00
伊達市	67	173	38.73	46	109	42.20	40	82	48.78	35	71	49.30
郡山市	462	1059	43.63	255	601	42.43	284	453	62.69	230	377	61.01
二本松市	79	169	46.75	48	105	45.71	46	69	66.67	37	66	56.06
大玉村	15	41	36.59	10	26	38.46	11	20	55.00	14	20	70.00
本宮市	55	123	44.72	30	76	39.47	41	54	75.93	28	44	63.64
三春町	12	34	35.29	6	15	40.00	4	10	40.00	5	10	50.00
9市町村外	37	52	71.15	35	59	59.32	49	64	76.56	34	50	68.00
計	660	2585	25.53	692	1528	45.29	705	1138	61.95	581	968	60.02

	第5回調査（2017年）:868人			第6回調査（2018年）:785人			第7回調査（2019年）:772人			第8回調査（2020年）:676人		
市町村名	自由回答記入者	調査回答者	記入割合	自由回答記入者	調査回答者	記入割合	自由回答記入者	調査回答者	記入割合	自由回答記入者	調査回答者	記入割合
福島市	176	279	63.08	142	254	55.91	136	251	54.18	113	219	51.60
桑折町	5	12	41.67	5	12	41.67	6	11	54.55	8	10	80.00
国見町	3	8	37.50	3	6	50.00	4	7	57.14	2	6	33.33
伊達市	33	64	51.56	24	58	41.38	21	52	40.38	18	47	38.30
郡山市	216	334	64.67	176	296	59.46	169	301	56.15	151	262	57.63
二本松市	32	60	53.33	25	56	44.64	25	50	50.00	17	45	37.78
大玉村	6	15	40.00	7	16	43.75	6	16	37.50	6	15	40.00
本宮市	22	40	55.00	17	35	48.57	18	33	54.55	13	28	46.43
三春町	4	8	50.00	3	7	42.86	4	8	50.00	3	5	60.00
9市町村外	31	48	64.58	27	45	60.00	31	43	72.09	21	39	53.85
計	528	868	60.83	429	785	54.65	420	772	54.40	352	676	52.07

---

[1] 本稿は、科学研究費助成事業（19H00614、15H01971）、トヨタ財団研究助成プログラム（D18-R-0325）の成果である。2020 年調査の全体的な傾向は「福島原発事故後の親子の生活と健康に関する調査報告書（2020 年）」（2020 年 4 月）に掲載されている。「福島子ども健康プロジェクト」のホームページ（https://fukushima-child-health.jimdo.com/）の「研究成果」で無料でダウンロードできる。まず、毎年、調査にご回答いただいている方々に深く御礼申し上げたい。また、自由記述の入力と分類、原稿執筆作業においては、福島子ども健康プロジェクト事務局の稲垣亜希子さん、藤井和美さんに多大なご貢献をいただいた。記して感謝申し上げたい。

[2] 2012 年 10 月から 12 月の時点で 9 市町村の役場で標本抽出を行った。その時点で、2008 年度出生児の全員は 6191 名。

[3] 成元哲・牛島佳代・松谷満 , 2014,「1,200 Fukushima Mothers Speak：アンケート調査の自由回答にみる福島県中通りの親子の生活と健康」,『中京大学現代社会学部紀要』8(1)：91-194 を参照。

[4] 成元哲・牛島佳代・松谷満 , 2018,「福島原発事故から「新しい日常」への道のり：2016 年調査の自由回答欄にみる福島県中通りの親子の生活と健康」,『中京大学現代社会学部紀要』